

# 再解釈

ポーランドの現代ポスター芸術  
REINTERPRETATION  
CONTEMPORARY POLISH POSTER ART



名古屋市立大学芸術工学部 (北千種キャンパス)  
芸工棟1階 GALLERY OF THE SCHOOL  
期間 10/22 (土) - 10/30 (日) 9AM-5PM

# 再解釈

ポーランドの現代ポスター芸術  
REINTERPRETATION  
CONTEMPORARY POLISH POSTER ART

ポーランドのグラフィックアートは、1950年代から60年代にかけての「ポーランド派ポスター」現象として世界的に知られるようになり、ヘンリック・トマシェフスキ(Henryk Tomaszewski)、ヤン・レニツァ(Jan Lenica)、ワルデマル・シフェジ(Waldemar Świerzy)、ヤン・ムウドジェニエツ(Jan Młodożeniec)などの名前は、グラフィックデザインの国際的な遺産として広く知られています。残念ながら、共産主義が崩壊し、1990年代の資本主義変革が進むにつれ、ポーランドにおけるポスター芸術はその地位や意義を失い、その後のデザインの質にも大きなばらつきが見られるようになりました。

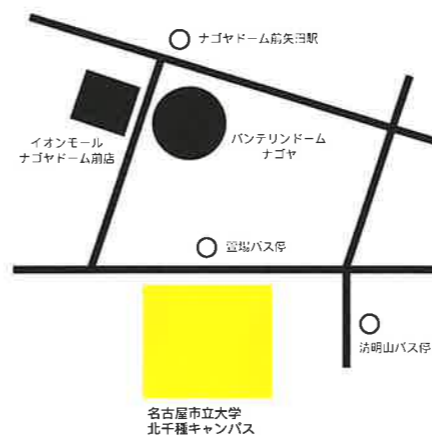
近年、ポーランドのポスター芸術は再び人気を取り戻し、人目につくようになりました。このようなグラフィックアート復権の理由はいくつかあります。ひとつは、ポスターに理想的な表現方法を見出した、若くて才能のあるイラストレーターの出現です。また、ポーランドでレトロなデザインに対するノスタルジーやファッションが浸透するようになり、ポスターに興味を持つ人々が増え、その市場が生まれたことも理由のひとつです。また、あらゆるポスターがデジタル版でも公開されることで受け手が増え、ソーシャルメディアもポスターの普及に役立っています。

現代ポーランドにおけるポスターデザインは、イラストレーションと強く結びついています。それぞれのデザイン分野の境界がごく曖昧となり、ポスター・イラストレーションという新しいデザインカテゴリーが誕生したことがわかります。もうひとつ重要なことは、ポーランドのグラフィックデザインの歴史と直接的に関連し、それらをはっきりと再解釈していることで、それにより一部のポスターは、あたかも50年代、60年代、あるいは70年代に制作されたかのような印象を与えます。もっと現代的なソリューションにより制作されたものも数多くありますが、それらでさえも何らかの形で歴史とつながっています。

ポーランドの現代ポスター芸術は、過去への創造的な回帰であり、ビジュアル文化の歴史を再解釈するというプロセスの興味深い例です。

展覧会に参加するアーティスト:

カロル・バナッハ(Karol Banach)、ヘアタ・シリピンスカ バラクズ(Beata Śliwińska Barrakuz)、パトリク・ハルジェイ(Patryk Hardziej)、ホームワーク | ヨアン・ナグルスカ、イェジ・スカクン(Homework | Joanna Górka, Jerzy Skakun)、クシシュトフ・イヴァンスキ(Krzysztof Iwański)、オラ・ヤシヨノブスカ(Ola Jasionowska)、ヤクブ・イェジエルスキ(Jakub Jezierski)、パベウ・ヨニツァ(Paweł Jorica)、ヤクブ・カミンスキ(Jakub Kamiński)、バルトシュ・コソプスキ(Bartosz Kosowski)、オラ・ニェプスイ(Ola Niepsuj)、プラキヤト(Plakiat)、アリナ・リバツカ(Alina Rybacka)、ダビド・リスキ(Dawid Ryski)、ヴィクトル・ソマ(Victor Soma)、アレクサンデル・ワリエブスキ(Aleksander Walijewski)、アダ・チエリンスカ(Ada Zielińska)



名古屋市立大学芸術工学部 (北千種キャンパス)  
芸工棟1階 GALLERY OF THE SCHOOL  
期間 10/22 (土) - 10/30 (日) 9AM-5PM

〒464-0083 名古屋市千種区北千種2-1-10  
<https://www.nagoya-cu.ac.jp/access/kitachikusa>

このプロジェクトは、ポーランド共和国文化・国家遺産省の支援を受けて実施されています。  
サポート: 名古屋市立大学 芸術工学部 環境デザイン研究所  
ポーランド公使文化センター 支援

